夕刊
磐城新聞
八月二十一日發行
定價 一ヶ月 金六十五錢 …… 發行所 磐城新聞 合資會社 ……
（日曜祭日翌日休刊）

東北振興策に就て

貴族院議員　金成通

（金成上院議員は所謂東北振興問題が東北出身の立場として事、郷國興亡に關する問題であると云ふ見地から貴族院東北振興電力株式會社外一件特別委員會にて五月十七日、十八日及豫算委員會にて五月二十二日之に關する質問を試みられたが、今回當時の速記をパンフレットとし一部希望者に頒布されたので同氏の承諾を得左に抄錄する）（記者）

一

五月十七日質問
東北振興株式會社外一件
特別委員會議事速記

兩會社設立は東北に取りまして極めて重大な案件で私共も滿腔の敬意を以て之を迎へますと同時に、衷心から賛成致す者であります

過日來色々政府委員の御話を承りまして其の大体は判つたのでありますけれども、唯此の仕事に依つて東北に普く振興氣分が普及するものであるかどうかと言ふことに就て、私共は疑を持つのであります。東北は御承知の通り大部分が農村であります。東北を振興させると言ふ事は、この農村に過剩致して居りますする勞力を消化せしむると言ふことが、重大な要件でなければならぬと思ふ。仍つて此の東北興業會社が設ける工場の數が尠ければ尠い程、東北は普及致さないと思ふ是等に就きまして成るべく各所に、多くの工場を御設置になる御考を持つて居るかどうか

先般來松井局長の御話を承りますと、成るべく發電所の附近に工場を設置すると言ふやうな御趣旨にも承つたのであります。尤も一時に各所にと言ふことには參りますまいが、漸次各所に工場を設置する思召があるや否や。私共の考を以てすれば尠くとも工場を成るべく多くの場所に分布して成るべく普遍的に過剩勞力の消化を圖ると言ふことでなければ、東北振興の目的は達せられないのではないか、斯樣考へますので、此の點を一つ承りたいのであります

それから東北振興電力會社の設立に仍つて、既設の電氣會社を侵害するやうなことはないかどうか。是も程度の問題でありまして、何事も一方に利益があれば一方に不利益を伴ふことは止むを得ぬことでありますが、既設の電氣會社としても過去に於きまして不景氣の間に苦心經營を致して電氣事業の發達に寄與すると同時に、國家の文化に貢献して來たのであります。是等のものを此の電力會社が出來た爲に甚しく壓迫すると言ふことがありますれば、之は大に考へて頂かなければならぬ點があると思ふのであります

句帳から

戸一枚あけて朝寢の宿となり　一塊子
天井の水陽炎や朝寢覺め　佐渡子
朝寢人に大きく鳴れる時計かな　金波
覺めて猶朝寢の床に暫しあり　つねき
柿の葉のほぐるゝ雨に朝寢かな　三夢
隣室の既に發ちたる朝寢かな　鷗水

七夕俳句大會

日時、八月廿三日午後二時より
會場、平町城山聚樂園
會費、二十五錢
課歌、『天の川』三句
主催　青蔭發行所
後援　磐城新聞社

七夕（星祭）

哲名山人

下

これ等のことは左記の先人の詩歌にも表はれて居る

○秋の夜をながき物とは星合のかけみぬ人のいふにぞ有ける　（能因法師）
○大空　我もながめて彦星のつま待つ夜さへひとりかも寢ん　（紀貫之）
○彦星の行合ひを待つ久方の天の河原に秋風ぞ吹く　（源實朝）
○かさゝぎの雲井の橋の遠ければ渡らぬ中に行月もかな　（よみ人不知）
○七夕や橋に別れのさゝめ言　（蓼太）
○笹の葉の露にも星の一夜哉　（龜友）
○よみ歌をひそかに星の手向かな　（几董）
○戀さま／＼の願ひの糸も白きより　（蕪村）
○梶の葉に硯はつかし墨の糞　（舞踊）
○天の川敵陣下に見ゆるかな　（子規）
○荒海や佐渡に横たふ天の河　（はせを）
○七夕や加茂川渡る牛車　（嵐雪）
○芋の葉の露や銀河のこぼれ水　（自笑）
○曉のしつかに星の別れかな　（子規）
○夜明まで雨吹く中や二ッ星　（大草）
○梶の葉を朗詠集のしをりかな　（蕪村）
○わいへんはとばりもちけり星今宵　（よみ人しらず）

夢美しき天の川
金砂銀砂のせゝらぎを
わたち思ひのおつくとも

今宵織女渡天川
朧月微雲一似羅
（白樂天）

み空の風は涼しくて
こよひ七夕二ッ星
牽牛織女の逢ふころは
地上をかざる灯も
なにかうれしく瞬けり
母は乙女の思ひ出に
乙女は若き憧れに
竹の葉づれの歌のかげ
夜ふけの露に髮ぬれぬ
（白鳥省吾）

8月22日
△幕府與右衛を設く（元和元）△常島に米市場設置（享保一五）△各國間に赤十字條約なる（一、八六四）△韓國併合（明治四三）△時局匡救臨時議會召集（昭和七）

きうりもみさん

原田小太郎

きうりもみさん　すゞしいな
ろろん　ろんろん　水の音
こゝは山峽　お湯の宿
深川の音　すんでゐる
きうりもみさん　ごちそさん
これからピンポンして來ましよ

小説　高橋是清

(98)　松浦泉三郎作　佐々木今朝吉畫

驛遞寮・浪人（三）

『一體貴男は物忘れの度が強過ぎはせんか。もう一度只今の言葉が承はりたい』

前島は含み笑ひをしながら

『君ですら不用に近い今日もう一人採用せよなどとは思ひもよらんと言つただけだ』

『採用せよとは何だ。無責任極る放言は愼まれたい』

和喜次は手荒らく卓を叩いて

『採用して欲しいと誰が依頼した。誰が貴男に頼んだと言ふのだ？』

『君が今……』

『默れ！不用の者なら何故過日もう一人探しておいて貰ひたいと命じたのだ。命を受けたればこそ奔走して探し出したのだ。それを今日に至つて……』

『おい君ッ、亂暴な言葉は愼しんだが宜からう』

『愼む必要が何處にある。亂暴な言辭を愼しむべきは貴男の方だ。君こそだ。今日の豹變振りは、我々の目から見る時、まるで狂氣の沙汰ときり思へん。鴨池の方へは何と答へしむる氣だ彼は現在職に困つてゐるわけではない。立派な華族學校の教官だ。それを無理强ひに承諾させたのだ。然るに今日に至つてのその放言君のする事は判らん！』

『判らんでも宜い』

前島は蒼ざめて叫んだ

『無責任も甚だしい。不愉快だ。俺は歸る。二度と來はせん！』

ふン、と、前島は突つた和喜次を、床を鳴らして外へ出た。急に室内は、谷底のやうな、靜けさを暫らく保つてゐた

歸ると、和喜次は辭表を書き、更に前島宛の手紙を書き添へた

――本日の君の言辭は自分には全く了解し得ない。君は自分の長官ではないか。然も當方から依頼した事でなく、君から是非との依頼に接して、勤める事になつた自分だ。然るに今日同僚衆座の前で君ですら不用の者と放言した。敢て問はん、長官として假令一人たりとも不用の者を使つて、朝廷に對しての職責が濟むと思はるゝや。自分は一刻たりとも、君の如き無責任極まる長官の下に働く事を潔しとせぬ。依つてこゝに辭表を提出する然し辭表面ではそれは言はぬ直に受理されたい。但し辭任の理由は、飽くまでも君の無責任極まる放言に依るものなる事を明かにしておく

さう言つた意味の、文章の羅列だつた。卽刻使ひの者に屆けさせた。

數日後使ひが來て

『お受書がを頂戴したい』

と、封書を渡した。開いて見ると、依願免官の辭であるのに

――出仕ヲ免ズ

と、鮮かに認められてあつたので、和喜次は

『これはちがふ。わしは辭表を提出して許しを乞ふたのだ。職を免ぜられたのではない。これでは受書は出せない。持直して來たまへ』

『然し……』

と、使ひの者は澁つたが

『これでは斷じて受書は出せん』

と、もう一度和喜次に言はれると、そッとそれを置いた儘、こそ／＼と逃げ戻つて了つた

かくて有耶無耶の中に驛遞寮は辭して了つた。和喜次は遂に受書を出さず、爾後死に至るまで履歷書中にはこの事は書かずに終つた

沁々考へると、飛んだ道草を食つたものだ、と思はれた。もッと勉强だ、と思つた。思ふと、試驗を受けて早速開成學校に入學した開成學校は法、理、工、鑛等の部門の新設された、大學南校の後身だつた

先生が生徒になつたのである

廣告

注射の樣に效能ある
胃腸藥
油斷は禁物！
百聞より實驗！まづ試みられよ
日本人の體質に適應した合理的治療藥であると共にヴイタミンを含有せる保健劑であり、キヤメ本位の「わかまい」を必ず一度試みて他藥と比較せよ
胃腸藥（若舞）
わかまい
胃病　胃痛・胃酸過多症・胃擴張・急性胃腸カタル・食慾不振・消化不良・胃アトニー・下痢・便秘等胃腸病に特効があります
三十錢・五十錢・一圓　三圓・五圓
各地有名藥店・賣藥店に有り、若し品切れの節は直接本舗に御申越下さい
本舗　鈴木誠心堂
代理店　小野藥局　大平藥局　堀藥局

吉田眼科醫院

お盆提灯大賣出し
一見涼風湧く優秀品
特製　新型行燈
變り型は數百種も御座います。御一覽下さい。
尚本年度より製造元にて新製品は昭和十一年製の責任マークを入れてあります。御注意下さい。
平二丁目　福多屋

●お新盆提灯に御注意!!!
近年各地に於て再製提灯が市場へ出る爲めお贈りの方も頂いた方も誠に迷惑され又失禮にもなりますので製造者の間で相談の上今年の品物へは必ず昭和十一年製青色マークを入れてあります。御買求めの際は必ず御忘れなく昭和十一年製マークスと御指命下さい。
昭和十一年八月
提灯同業組合

佛ダンと御位牌
其他佛具一式
舊御盆に際し特に大勉强致します。
平町五丁目
吉野屋漆器店　電話五五四番

御新盆提灯
●御戒名提灯
…特製スソ模樣入レモ出來マス…
△岐阜提灯・變形掛灯
…各種取揃へました…
是非御用命を！價格低廉の
スガノヤ提灯店へ
平・四　電話九五番

お盆提灯大賣出し
絹張燈、牡丹行燈、都行燈、御殿行燈、スダレ行燈、二連行燈、紋天行燈、猫足行燈、其他變り形
他店にては見られぬ特約品澤山取揃へました。
平町四丁目角
菅野屋商店　電話一五七
遠近不拘見本は持參いたします。

神佛祭葬具一式
造花製造販賣
引物一式取扱
其他旗類一式取扱
博盛堂
店主　松本幸松
平町極樂小路一番地　電話（呼出）五三五番

祝　祖先崇拜は家庭繁榮の礎
造花調製　山光堂
創業以來茲に二十年皆々樣の深甚なる御引立に相成り誠に有難く厚く御禮申上ます。私は創業前東京技藝校を卒へ造花の研究を致して居りますが未だ一人前の藝術家として立つ事が出來ず御滿足を與へる事が出來ません。此後皆樣の御指導の下に一層研究致し度御批判の上御引立御鞭撻下さいます樣切に御願ひ申上ます。
店主　山田信次
◎お盆の御用意は！
佛壇　佛位牌　塗位牌
金物佛具品
取揃へて有ります。
平四丁目通り　電話五五〇番

難波醫院
內科　小兒科
入院應需
自炊の便あり
平町大町　電話五〇二番
（看護婦見習、看護婦募集）
醫學博士　難波睦

舊七月一日ヨリ
佛壇及佛器具各種賣出し
舊盆！
年に一度の佛の供養に
何人樣にも御準備を！
種目
佛壇、位牌、佛膳、佛椀、經机
高杯、茶碗蓋、木魚、撞木、經本
珠數、過去帳、輪及燈、線香立
常花、香爐、佛器、ローソク立
新盆の御家庭へ贈つて喜ばれる佛器具を御勸め致します。
(本) 丸ほん商店
平町三丁目
電話三五九番

食事、喫茶、酒場を兼ねた
夏のサロン
男給の店
平・田町・電三五二

御進物には
鰹節に
鹽辛
魚問屋
平町四丁目　電二一三

そよぐ笹竹 躍る色紙
美を總動員の豪華場面
愈よ明日から飾る七夕祭

半月も一と月も前から珍案妙想を極限に練つて何れ劣らず尖端的出し物の準備を進め乍ら待ち構へた七夕は愈よ明廿二日の舊六日から一齊に飾られ絢爛目を奪ふ色彩總動員の豪華場面が展開される。之より先平驛には既報の通り商工會その他より待合、改札口其他に數本の笹竹と十個の提灯を點じ大に七夕氣分を昂揚した外今日からはホーム迄飾り立てゝ構內の其所ここにそよぐ笹竹の鮮新と色彩の交錯とは往ふき來ろさの人群れに慌だしい場所柄に不似合な優雅な空氣を漂はせてゐる今七夕の最高峰を自負する各戸の飾り立ては明二十二日の午後頃迄に殘らず出揃つて打水の鋪道に涼風の立つ頃から漸く出さかる見物人の群に、宵から夜へ――平町の本町通り、マルトモ横町、平ギンザは恐らく肩摩轂擊の大混雜を現出する事であらう

列車增結
自動車制限

三日間の人出を見越した平驛では臨時列車は出さぬが適宜に列車を增結して見物人の便宜を圖る事となり又平署では雜沓時の自動車運轉制限をなすと

村 首腦部が會見
兩町 合併促進協議
平町と平窪の交渉進む

平町では、同町との合併問題に對し先進地視察や村民大會を開き來たなは確固たる態度を決し兼ねて居る平窪村當局から來る廿四日同村小學校に平町側と會見したき旨申込んで來たので、今廿一日午前十一時から部長會を開き種々これが對策に關し熟議を凝らしたが、これにより漸次解決の曙光を見出すではないかと云はれてゐる

達林庶務課長
明廿二日來郡

達林本縣庶務課長は二十二日來郡、小林平七木監督所長案內の下に郡下東北振興關係の主なる工事個所を視察する

平町選擧人名簿作成

平町では明年五月執行される町會議員の改選期を前に來月十五日現在で選擧人名簿を作成するので同月上旬選擧資格申告用紙を配布するが例年惱されてゐるこれが異動屆けに關し明二十二日の區長會議で種々打合せる事となつた

。。。。。二毛作栽培講演 赤井村農會では二十六日同村第一第二小學校で二毛作栽培の講演會を開く

甲子園目指し 磐中選手出發

二十六、七日甲子園の全日本中等校選手權大會に出場の磐中競技部關場毅、武藤義明兩君は明後二十三日午前九時平驛發列車で下山田部長引率出發する

。。。。。本田巡査赴任 猪苗代署に轉任の平署內勤巡査本田敬治氏は來る二十五日平驛午前十一時十分發で出發赴任する

。。。。。。。土地賃貸價格調査 平町の土地賃貸價格實地調査は來月中各區に亘り行はれる

青沼町長歸平

宮城縣鎌先溫泉で靜養中であつた青沼平町長は今二十一日午後零時四十三分着で歸平引續き自宅で靜養する

左に菅笠右に軍扇
颯爽たる野立袴姿
澤村公像のデザイン腹案

小川江開鑿の恩人澤村勘兵衛勝爲公の頌德銅像建設計劃は漸く之が德澤に浴する關係農民の關心を深めつゝあり遠からず事實の問題として經費豫算及び之れが醵金方法其他に關する具体案が立てらるるものと觀られてゐるが、過般來主として其の促進に努めつゝある某氏が考案を進めてゐると云ふデザインの概略を聞くに最下部の礎石には水門から灌漑水の迸出する狀を浮き彫りし、之に配する公の像は左手に笠を右手に軍扇を携へ野立袴姿も颯爽と當時の健鬪振りを象徵し度いとの事で、尙は作製の際は平窪村役場所藏に係る後裔澤村勘一氏(當主孝夫氏の祖父)の寫眞に據る見込なる旨既報の通りである

防空演習
正味十時間餘に亘り
嚴密な燈火管制實施
愛婦會員も襷がけで活躍

空襲!防護!愈よ來月十一、二の兩日に迫つた防空演習を前にして各種機關は目下總動員でこれが準備工作に當つてゐる―平町防護三方部では關員の役割人選を急ぎ、平局でもこの二十七日管內主要八局幹部を招集して期間中の通信事務講習、明二十二日には區長會が開かれて各區の連絡强調を圖り、鐵道でも此程綴驛に豫行演習(燈火管制其他)を行つて萬事OKだ、十九日縣下關係筋を網羅して開かれた第三回協議會には愈よ警報傳達受領 防空警報の傳達 電燈點滅 電信電話施設無き村への傳達 消防組の參加 其他の大綱が成り今演習の眼目たる燈火管制は十一日午後六時より翌十二日午前四時五十分迄と決定された一方愛國婦人會平町分會でも磐城支部からの通牒に基き『婦人の力で大空を護りませう』と襷がけも甲斐〲しく炊出し、湯茶の供給、傷病者の看護、或は防毒の手助け、防護團員の慰問等銃後の支援と云つた處を演出する筈である

紙芝居で宣傳

平町防護團では演習の實施要項普及のため來る二十四日左の如く町內七ケ所にこれに因んだ紙芝居を行ふ事となり今二十一日各區に每戸一人宛觀覽するやう通牒を出した

第三小學校(午後一時半)四軒町自動車學校(二時四十五分)商業學校(四時)訓盲院(五時十分)十五丁目團体事務所東(七時)平驛前(八時十分)門傳辯護士前(九時二十分)

生狹い坑夫
酌婦の貯金を橫領

磐崎村長倉炭礦坑夫渡邊正司(三八)は去る十四日湯本町笠井料理業大和家方酌婦東條豊子(二八)から貯金十五圓の拂戻しを賴まれたのを奇貨に三十五圓を拂戻して橫領費消した事發覺、平署に檢擧された

稻垣中將視察

鄕軍本部審査員陸軍中將稻垣三郎氏は二十二日江名町の簡閱點呼を視察する

水の覇者目指して
三大炭鑛競泳會
明後日磐炭プールの壯觀

劈頭東北鑛山野球、庭球熱戰に於て目覺ましき成績を收めた磐炭、入山、古河の三强剛が水の制覇を目指す第四回常磐炭鑛水上選手權大會は明後二十三日の日曜公休をトし午後零時半より內郷村磐炭プールに於て選手入場 國旗揭揚 優勝盃返還(前年優勝磐炭) 會長(仙臺鑛山監督局長)立花俊一氏訓示 審判長(同局礦政課長)白井義三氏注意 選手宣誓の順序によつて左記種目の競技に入るが、今年は各社共從來以上の猛練習を續け來つた丈けに一層物凄い接戰を豫想されてゐる

1 一〇〇米自由型 2 同(尋常小學生) 3 四〇〇自由型 4 一〇〇背泳 5 二〇〇平泳 6 二〇〇繼泳 7 四〇〇繼泳(高等小學生) 8 一、五〇〇自由型 9 二〇〇繼泳 10 三〇〇混繼泳 11 二〇〇自由型(高等小學生) 12 飛込及來賓競泳 13 八〇〇繼泳

(役員)會長立花俊一 副會長審判長白井義三 幹事吉田宗雄 下野十郎 菅原萬治郎 審査員青野輝夫外五名 合圖員谷川信一 總務芦川正信 蒲田久之介 香月新一 鈴木清徹 上原四郎 柳瀨菊次郎(以下略)

再た手提金庫泥
五丁目の材木店を荒す

十九日夜九時頃平町五丁目丸一材木店瀧口豊氏方へ賊忍び込み店先にあつた現金二十圓と額面百圓の郵便貯金通帳印鑑在中の手提金庫を盗まれたので早速平署に屆け出たが昨二十日に至り附近の田圃から現金だけ拔き取られた金庫を發見、同署に屆けられた、最近各所に金庫泥が出沒するので目下極力搜査に當つてゐる

追經濟部長を招き
山田村更生祈願祭
來廿四日小學校で

昨年度經濟更生村に指定された山田村では二十四日午前八時から小學校で追經濟部長、成島技師を招き祈願宣誓式を擧行、終つて懇談會を開く、尙今年度指定の小川村でも同日小學校に委員會を開く

愉快な「シベリアの旅」
車中に『おけさ』を聽く
松野尾氏通信=抄記 上

汽車は白樺と松の森の中をモスコーへモスコーへと走りつゞけてゐる。夕方七時にはクレムリン宮殿を初めモスコー見物が出來る筈た

二十日滿洲里を發つてから六日間のシベリヤの旅は愉快な旅であつた。僕の考へてゐたシベリヤとはまるで正反對なシベリヤでもあつたし、又考へてゐた通りのシベリヤでもあつた。自然も人間も見るもの聞くもののすべてが僕の生長の糧となつてくれるような氣がする。語りたい數々の印象があるが、これは歸つての土産話としよう

車中のことを二三書いてみよう。列車には放送の設備があつて、各地放送局の放送、或はレコードをかけて絶えず音樂の放送をやつてゐる。一昨晩はノツオツビリスク放送局からオペラ『アイーダ』の放送があつた二十一日の夜、大阪の友人から伯林に託されたレコードのあるのを思ひ出し、之を放送室に持參してかけさせた。偶然、隅から隅まで『佐渡おけさ』が踊こね出した。つゞいて『野崎參り』『二人は若い』車中の日本人は皆廊下にとび出して手拍子をとり出した。『證々寺の狸』が聞えると『子供を思ひ出すね』と語る人もあつた。此のレコードが僕たちの持參と皆が知る迄には二、三日かゝつたようだ ソヴイエツトの列車で『佐渡おけさ』の放送は、これを以つて最初とするかも知れない

放送室の係りは二十才の青年だ。彼は少ししか獨乙語が話せないが今一人電氣係の青年は非常に獨乙語が上手だ。時々放送室に行つて單語を並べて話をする。此の靑年も二十才だが、今一人僕程度しか獨乙語の話せない靑年も時々來てなか〳〵面白い。電氣係は月給五百ルーブルとか日本の五六十圓にあたるようだ。驛で二合位の牛乳が一ルーブルだ。(日本貨幣との換算は別だ。之は面倒故歸つてからの話)二十才前後の青年は學校で獨乙語を相當學んでゐるらしい

平商生賣り込み
各方面に依賴狀を出し
早くも運動を開始

平商業學校の卒業生就職斡旋運動は例年賣り殘りない好成績を收めてゐるが、逐年就職希望生增加から『全部賣り込み』は漸次困難となり之が運動の陣頭に立つ矢野校長を始め各擔任教諭の苦心一方ならぬものあり今年も來る新學期早々本格的の運動に入ることになり此程各方面に依賴狀を發送した、なほ近く職員會を開いた上、來春卒業の八十四名各個人に就き詳細その個性を調査、適材適所の方針で萬遺漏なき賣込みを開始すると

窓から乘り出し
助手、頭蓋骨を粉碎
今曉磐崎の自動車事故

今二十一日午前三時半頃磐崎村大字下船尾字內地內縣道で東白川郡竹貫村田口自動車業高橋庫治方運轉手弓田虎治(三三)が木炭滿載のトラックを運轉、小名濱町に向け疾走中後方から來たトラックを避けんとした際同乘の助手同村利政二男荒川豊政(二七)が窓口から上半身を出したので二本松電氣の電柱に激突頭蓋骨を粉碎して慘死 電柱は車体にかゝつて打ち倒れた

手長土工

植田町本町三好末次方土工齊藤一(二九)は十一日午後十一時頃同町土木請負業中山組の工事場から銅線十圓分を竊取、又錦村江栗坂本飯場內土工中子忠直(四四)は去月二十二日午前一時頃同村昭和人絹工場に忍び込み鉛板二貫匁を竊取竊賣。何れも植田署に檢擧

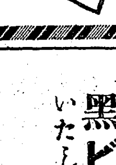
前借金詐欺?

長野縣下高井郡山田村齊藤ヒサは去る六月內郷村白水に居住中生活苦から三女トヨ(一二)を當時湯本町自稱周旋業遠藤政之助の世話により五年間百五十圓の契約で千葉縣都賀村鹽田爲吉方へ女中に住込ませたが契約期間が十年になつてゐるばかりでなく契約當時借りた內金二十圓が五十圓になつてゐるので吃驚今一日平署に事情調査方を願ひ出た

天氣豫報(小名濱測候所測)
今晩は南の風曇一時晴
明日は南西の風晴時々曇

二十二日(小名濱測候所發表)
日出 五、〇一 月出前 九、三八
日沒 六、一九 月沒後 八、二九
滿潮前 六、二五 干潮前 〇、二五
後 六、一五 後 〇、一五

廣告

御中元の御贈答に

商品券を
御利用下さいませ
ふかや洋服店 平三町 電203

御禮
生ビール發賣以來連夜豫定の樽數を賣盡し有難う存じます。就ては御禮として毎土曜日を黑ビールデーとして御奉仕いたします。
平會館 電六二四

(商品券御利用下さい)
御中元大賣出し
毎度有がたう
新荷取揃へました、御贈答品は是非當店へ
田口はきもの店 電三七七番

青光院新盆に相當り候處誠に乍勝手提灯其他供物等御贈與の儀御辭退申上度右不惡御了承願上候
青沼鋒太郎

隆德院新盆に相當り候處提灯その他供物等御贈與一切御辭退申上度く乍勝手以紙上御願申上候
平町紺屋町 加納邦武

亡父應和院儀新盆に相當り候得共時節柄提灯其他供物一切御辭退申上度甚だ勝手乍ら不惡御諒承願上げ候
昭和十一年舊七月 平町古鍛冶町一〇
阿康藥局 阿部康雄

謹告
亡父隆光院の新盆に相當り候處時節柄故提灯其他の供物等一切勝手乍ら謹みて御辭退申上候間不惡御諒承下され度願上候
磐城平町白銀町 齋藤角治

亡兒政雄儀新盆に相當候處誠に乍勝手提灯其他供物等固く御辭退申上度謹告候也
平町三丁目 大谷久藏

新八月二十二日 土曜 七月六日 丙子 赤口 定 氐宿

諸列定應需 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 人をあなどり己をほこりて排斥せらるゝ事あり▲二黑 無理も通り利得さへ加はるべき日當圖に吉▲三碧 智慮を廻らしうて大に發展を來す日▲四綠 才德衆に認められ用ゐらるゝ所大なるべし▲五黃 運氣良好に志望遂行す但し技術にふければ凶▲六白 拔け目無く立廻らざれば意外の災に敗あり▲七赤 幸福を望まば德を積み仁を施す心掛が肝要▲八白 計畫追々と順調に運ぶ日吉 請造作商談不利▲九紫 燃え立つ心を打消して萬事差控ゆるが安全